

明石藩舞子台場(舞子砲台)(国指定史跡)(神戸市垂水区東舞子町 4)

明石藩舞子台場跡（あかしはんまいこだいばあと）は、兵庫県神戸市垂水区の舞子公園にある砲台跡。舞子砲台跡とも。国の史跡に指定されている。

概要

幕末の文久3年（1863年）、将軍徳川家茂による大坂湾の海防状況視察の際に、砲台拡充の幕命を受けた明石城主松平慶憲により築造された。工事は勝海舟の設計・総指揮、設備担当は幕使佐藤與之介、施工は明石藩で、ほか神戸海軍操練所等の協力による。竣工は1865年。

建設の目的は、淡路島北端（淡路市）の徳島藩松帆台場跡（国の史跡）と対になって兩岸から明石海峡（瀬戸内海と大阪湾をつなぐ海峡）を通過する黒船を挟撃することであったが、一度も使用されることはなく現在に至っている。

明石藩舞子台場は舞子駅の南側、橋の科学館の北側に築かれている。

台場の石垣は稜堡式で海側の石垣はw型になっていたが、現在表面に見えているのはその一部である。

Wikipedia による

